

建設新聞

2025
12月17日
水曜日

プルデンシャル生命保険株式会社

仙台支社
ライフプランナー 野口 勝美

〒980-0021
仙台市青葉区中央3-2-1 青葉通プラザ9階
TEL:022-262-7288 FAX:022-262-7020

くるみん認定企業(左から
3番目)丸か建設



えるぼし認定企業(左から
2番目)建設技術センター、
同4番目熱海建設、同5
番目三協技術



宮城労働局

丸か建設、熱海建設らに交付

くるみん・えるぼし認定

宮城労働局は12日、くるみん・えるぼし認定通知書交付式を仙台市の同局で行った。当日は、「プラ

チナくるみん」に認定された丸か建設(宮城県加美町 佐々木一暢代表取締役社長、「えるぼし」の3段

階目に認定された建設技術センター(仙台市 鈴木淳司代表取締役社長)、同2段階階目に認定された熱海建設(仙台市 千葉嘉春代表取締役)、三協技術(仙台市 高橋郁代表取締役)に松瀬貴裕局長が通知書を手渡した。建設業および関連業種を含む8社が認定を受けた。

「くるみん認定」は、従業員の子育て支援に積極的に取り組む企業を認定するもの。「えるぼし認定」は、女性活躍のための行動計画を策定し、一定の要件を満たした企業を認定する制度。丸か建設は年次有給休暇の取得促進(年10日以上)、ノーマル残業を継続実施など

3目標を設定。年休取得は22年6月から3年間の計画期間中14・2日から15・4日に増加。特筆すべきは育児休業等取得率で、男女ともに100%を達成したほか、女性マネジメント研修やワークライフバランス研修、インターシフト受け入れなど人材育成にも注力している。

建設技術センターは正社員の女性比率39・1%、産業平均25・7%、管理職比率30・0%、(産業平均10・0%)といずれも産業平均を大きく上回る。女性の平均継続勤務年数も10・9年と産業平均を超え、全ての雇用管理区分で時間外労働が月45時間未満の維持などが評価された。

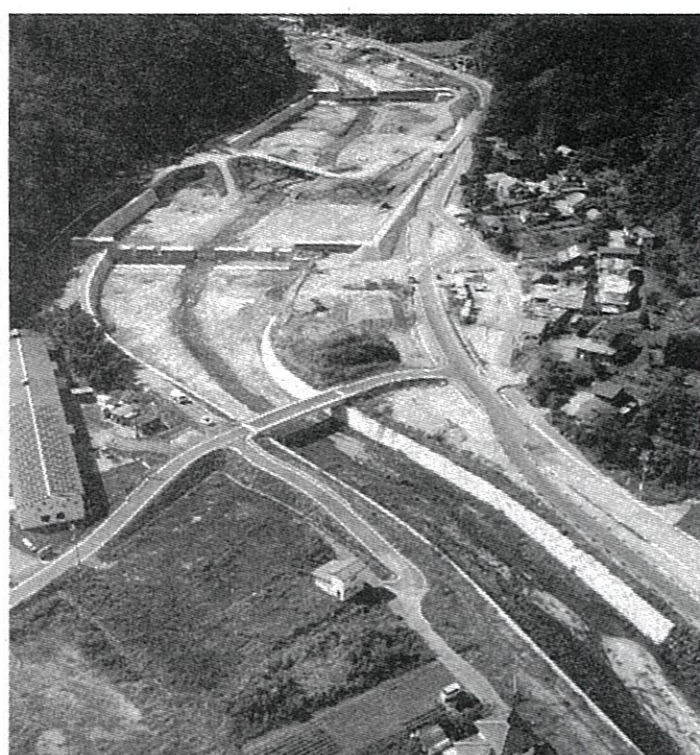
熱海建設はIT技術の活用を機に女性を積極採用し、正社員の女性比率25・0%(産業平均14・8%)を実現。女性社員の意見を参考に規定を見直し、性別

東北 現場の底力

3Dプリンター

宮城県丸

整備が進む五福谷川遊砂地(10月時点)



仕上げ施工＝熱海建

の仕事で取水時期と梅雨時期は水の流れのコントロールが難しかった」と苦労を話した。昨今、緊張が走る「クマ」について「幸い現場では見られていない」と苦笑していたが、クマ撃退スプレーと音が出る爆竹や火薬銃を準備して万全を期していた。

写真② これから着手する護岸掘削で発生した石を活用する



現場では多数のICT技

高坂現場代理人



生すると管理者に通知が届くシステムを採用。山側で冬を迎えることから、体調管理には手を抜かない構えだ。また作業員に工程を説明する中で3DプリンターやAR技術を活用する(写真③)。「図面だけでは分か

いやすい雰囲気」が定着したことが大きい」と語った。

日本銀行仙台地区における月期の企業短冊査(短観)を基に景況感を表す指数(DI)はプラス5となつた。建設業のDIを示したのは2015年5期ぶり。DIは、景気と答えた企業の「悪い」と答えた割合を差し引いた四半期ごとに示しており、12月は東北管内の6

自民党

メガソーラー

次世代型太陽

自民党は15日、経済産業部会や環境部会などの合同会議を開き、メガソーラーの導入に対するFIT・FIP制度での支援廃止を求める提言案をまとめた。今後は、建物屋根へのペロブスカイト太陽電池など次世代型太陽電池の設置が進むよう、重点的に支援すべきとされている。

木原稔官房長官は、FIT・FIP制度によるメガの支援は、すでに述べていると考へて、「政府に制度に基づく新画面の認定を行なう、今後の支援を求めたい」と語り、FIT・FIP再生可能エネルギーを導入するため業者を支援する



小林政調会長